

授業科目	保育の心理学	単位／時間	2単位／30時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	高野 隆司
授業の目的・テーマ	生涯発達理論、子どもの身体・運動、知覚・認知、情動、言語、社会性の発達について学ぶ。		
授業の到達目標	1 教育および保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。2 乳幼児、子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得する。3 養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子ども理解を深める。4 生涯発達の観点から初期経験の重要性について理解する。		
授業の計画	1 発達心理学の課題①	26	老年期の生活②
	2 発達心理学の課題②	27	現代社会と発達①
	3 発達についての理論①	28	現代社会と発達②
	4 発達についての理論②	29	現代社会と発達③
	5 発達についての理論③	30	まとめ
	6 発達についての理論④	31	
	7 言葉の発達①	32	
	8 言葉の発達②	33	
	9 知的発達①	34	
	10 知的発達②	35	
	11 環境と発達①	36	
	12 環境と発達②	37	
	13 感情の発達①	38	
	14 感情の発達②	39	
	15 感情の発達③	40	
	16 感情の発達④	41	
	17 社会性の発達①	42	
	18 社会性の発達②	43	
	19 道徳性の発達①	44	
	20 道徳性の発達②	45	
	21 青年期の発達①	46	
	22 青年期の発達②	47	
	23 成人期の生活①	48	
	24 成人期の生活②	49	
	25 老年期の生活①	50	
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	「保育の心理学」 近畿大学九州短期大学 「保育の心理学—育ってほしい10の姿」 中山書店		
評価の方法や基準	・ 考査点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input checked="" type="radio"/>		
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員		
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めしていく。		
履修上の注意事項	・ 講義終了後、テキストや配布資料に再度目をとおし、発達課題について理解を深める。		

授業科目	乳児保育 I	単位／時間	2 単位／30時間
開講学科等	福祉保育学科 3 年	担当教員	弘田 恵子
授業の目的 ・テーマ	○乳児保育の歴史的変遷を知り、乳児の育つ環境の重要性、乳児保育の役割や課題を知る。 ○保育士として必要な乳児保育の基本的知識を獲得する。 ○乳児期の心身の発達特徴を理解する。 ○演習を通して乳児の適切な援助方法、必要な道具の使い方等を修得する。		
授業の 到達目標	○乳児は養育者や保育者に関わってもらうことによって育つ存在であることを知る。 ○乳児期の生活リズムや基本的生活習慣などの発達と援助、健康、安全について知る。 ○乳児の発達に即した保育内容と環境づくりを理解する。		
授業 の 計 画	1 授業のねらい 乳児保育の理念・概念	26	長期的な指導計画と短期的な指導計画
	2 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	27	個別的な指導計画と集団の指導計画
	3 乳児保育等の支援をめぐる社会的状況	28	職員間の連携・協働
	4 保育所における乳児保育	29	保護者との連携・協働
	5 保育所以外の施設における乳児保育	30	地域等の連携・協働 まとめと確認
	6 家庭的保育等における乳児保育	31	
	7 家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	32	
	8 3歳未満児の生活と環境	33	
	9 3歳未満児の遊びと環境	34	
	10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育	35	
	11 発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり	36	
	12 発育・発達をふまえた保育における配慮	37	
	13 乳児保育の計画・記録・評価とその意義	38	
	14 演習・乳児保育の基本	39	
	15 子どもの生活の流れ(0歳児クラス)	40	
	16 子どもの保育環境(0歳児クラス)	41	
	17 子どもの援助の実際(0歳児クラス)	42	
	18 子どもの生活の流れ(1歳児クラス)	43	
	19 子どもの保育環境(1歳児クラス)	44	
	20 子どもの援助の実際(1歳児クラス)	45	
	21 子どもの生活の流れ(2歳児クラス)	46	
	22 子どもの保育環境(2歳児クラス)	47	
	23 子どもの援助の実際(2歳児クラス)	48	
	24 子どもの心身の健康等、安定のための配慮	49	
	25 集団での生活や環境に対する配慮	50	
授業の方法	講義・演習		
テキスト/参考文献	「はじめて学ぶ乳児保育」／ 保育所保育指針 授業中に配布するプリント及び冊子		
評価の方法 や基準	授業への取り組み、態度(20%)・提出物(10%)・筆記試験(70%)により評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input checked="" type="checkbox"/>		
実務経験	臨床経験、母乳育児相談室や母子衛生研究会、保育園での園長経験の中で、多くの母児と関わり、さまざまな面接相談も受けてきた。40年以上の実務経験有。		
実務経験の 活かし方	長年にわたる、さまざまな援助が必要な子どもへの対応経験から、実践的な教育内容を展開でき、より具体的な指導を提供できる。		
履修上の 注意事項	• 乳児と触れ合う機会を積極的に作ろう。 • 日頃より乳児に関する出来事に关心をもち、さまざまな情報に目を向けよう。 • 前回までの授業内容については各自復習し理解しておこう。		

授業科目	乳児保育 II (スクーリング)	単位／時間	1 単位／15時間
開講学科等	福祉保育学科 3年	担当教員	弘田 恵子
授業の目的 ・テーマ	○保育士として必要な乳児保育の知識、技能、感性を獲得する。 ○乳児期の心身の発達特徴を理解する。 ○乳児に関わる多職種を知り、他の専門職との連携を学ぶ。		
授業の 到達目標	○乳児期の発達と援助、健康、安全について知る。 ○乳児の発達に即した保育内容と環境づくりを理解する。 ○保護者を中心に、多職種との連携が取れるようになる。		
授業 の 計 画	1 授業のねらい 乳児保育の重要性	26	
	2 乳児保育の理念、役割	27	
	3 乳児期の発育発達	28	
	4 乳児保育の環境と安全	29	
	5 保育所における保護者支援	30	
	6 家庭・地域における保護者支援	31	
	7 子育て支援センターの役割と実際	32	
	8 多職種との連携と実際	33	
	9 演習 その1「乳児の扱い」	34	
	10 演習 その2「乳児の体調の見方と病気」	35	
	11 演習 その3「乳児の遊び」	36	
	12 各指導計画・連絡帳等記録の実際	37	
	13 グループディスカッション「乳児保育について」	38	
	14 グループディスカッション「保護者対応」	39	
	15 乳児保育と保護者支援の課題と展望	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	
授業の方法	講義・演習		
テキスト/参考文献	「はじめて学ぶ乳児保育」／ 保育所保育指針 授業中に配布するプリント及び冊子		
評価の方法 や基準	授業への取り組み、態度、意見、発表(50%)・提出物(10%)・レポート(40%)により評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input checked="" type="radio"/>		
実務経験	臨床経験、母乳育児相談室や母子衛生研究会、保育園での園長経験の中で、多くの母児と関わり、さまざまな面接相談も受けてきた。40年以上の実務経験有。		
実務経験の 活かし方	長年にわたる、さまざまな援助が必要な子どもへの対応経験から、実践的な教育内容を展開でき、より具体的な指導を提供できる。		
履修上の 注意事項	・乳児と触れ合う機会を積極的に作ろう。 ・日頃より乳児に関する出来事に关心をもち、さまざまな情報に目を向けよう。 ・前回までの授業内容については各自復習し理解しておこう。		

授業科目	子どもの健康と安全 (スクーリング)	単位／時間	1／15
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	畠中 ゆかり
授業の目的 ・テーマ	1. 子どもの栄養や育児技術を習得する。 2. 子どもの病気やけが、感染症に対しての対処方法を習得する。		
授業の 到達目標	身近なけがや疾病、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。		
授業の 計画	1 子どもの保健についての概念	26	
	2 バイタルサイン測定法	27	
	3 身体測定 (演習)	28	
	4 抱っこの仕方 オムツの当て方 (演習)	29	
	5 肌着の交換方法 (演習)	30	
	6 母乳栄養 調乳方法	31	
	7 病気のサインへの気付き方	32	
	8 感染症の対処方法	33	
	9 子どもの事故 けが・やけどの応急処置	34	
	10 //	35	
	11 窒息時の処置と心肺蘇生法	36	
	12 沐浴 (モデル人形での演習)	37	
	13 //	38	
	14 //	39	
	15 まとめ	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	
授業の方法	講義 演習 グループワーク		
テキスト/参考文献	適宜、資料配布		
評価の方法 や基準	講義での課題 受講態度 プレゼンテーション		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input checked="" type="radio"/>		
実務経験	総合病院にて助産師として勤務		
実務経験の 活かし方	命を大切にする姿勢、助産師としての経験を授業の中に取り入れる。		
履修上の 注意事項	授業態度を重視します。		

授業科目	保育・教職実践演習	単位／時間	1／15
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が実践力として、保育現場で発揮できるよう形成されているかどうか確認するとともに、将来保育者とし職務を遂行するにあたり、自分自身の不足している課題が何なのかを意識化し、その向上を図っていく。		
授業の到達目標	幼児理解の統合を図り、保育者としての使命感や責任感を持った、実践的指導に必要な能力を高める。		
授業の計画	1 自己分析（自己・他者評価から考える）	26	
	2 保育者を目指して…目指す私・思い描く保育者像	27	
	3 保育者になる前に（保育士・幼稚園教諭・施設保育士）	28	
	4 保育者の資質	29	
	5 保育における子ども理解の方法・理解の実際	30	
	6 実践的に理解する/子ども理解と記録	31	
	7 保育カンファレンスの重要性	32	
	8 気持ち理解（おもしろさ・やりたくない）	33	
	9 保育者の専門性（考察・成長・論理）	34	
	10 保育者としての仕事及び使命感と責任	35	
	11 保育をめぐる様々な動向	36	
	12 仕事を成功に導く対人関係能力	37	
	13 保育実践力①	38	
	14 保育実践力②	39	
	15 まとめ	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	
授業の方法	講義 ロールプレイ		
テキスト/参考文献	保育・教職実践演習（近畿大学九州短期大学）		
評価の方法や基準	出席状況 学習意欲 試験		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="radio"/>		
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		
履修上の注意事項			

授業科目	保育教職実践演習（スクーリング）	単位／時間	1／15
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	山下 昌世
授業の目的 ・テーマ	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が実践力として、保育現場で発揮できるよう形成されているかどうか確認するとともに、将来保育者とし職務を遂行するにあたり、自分自身の不足している課題が何なのかを意識化し、その向上を図っていく。		
授業の 到達目標	幼児理解の統合を図り、保育者としての使命感や責任感を持った、実践的指導に必要な能力を高める。		
授業の 計画	1 実習の振り返り	26	
	2 保育・教育職の意義と職務内容	27	
	3 安全管理・危機管理	28	
	4 家庭地域社会とに連携	29	
	5 事例研究：子ども・保育者との信頼関係の構築	30	
	6 保育者に必要なコミュニケーション能力	31	
	7 教育実習を振り返りパワーポイントを作成	32	
	8 ・実習施設の概要および特色	33	
	9 ・実習内容について	34	
	10 ・実習で学んだこと	35	
	11 ・今後の課題	36	
	12	37	
	13 発表・意見交換	38	
	14	39	
	15 保育・教職に就く心構えと準備	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	
授業の方法	講義 発表 議論 模擬保育		
テキスト/参考文献	特になし 資料等の配布		
評価の方法 や基準	態度 発表 レポート		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する		○	
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の 活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		
履修上の 注意事項	動きやすい服装を着用		

授業科目	保育実習事前事後指導 I (施設)	単位／時間	1 単位/ 15 時間
開講学科等	福祉保育学科 3年	担当教員	徳弘 美帆
授業の目的 ・テーマ	児童福祉施設（保育所以外）の概要等を理解し、保育者・支援者の役割を実習を通して学ぶ。		
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 施設実習の全体の枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 それぞれの実習施設に沿った日誌の書き方を知る。 実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や気づきを明確にする。 		
授業 の 計 画	1	施設実習に関する基礎的理解	26
	2	実習に臨む姿勢について基本事項	27
	3		28
	4	↓	29
	5	各施設の役割と機能などについて	30
	6		31
	7	↓	32
	8	障がいについて	33
	9		34
	10	実習日誌の書き方について	35
	11		36
	12		37
	13	↓	38
	14	実習目標について	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	「知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」		
評価の方法 や基準	授業への積極的な態度・課題等の提出による。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="checkbox"/>		
実務経験	保育所で保育士として勤務。		
実務経験の 活かし方	児童福祉施設における実際を分かりやすく伝える。		
履修上の 注意事項	実習施設に対する事前学習をしておくこと。		

授業科目	教育実習	単位／時間	4／180
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的 ・テーマ	座学で学んだことを、体験から子どもを理解して、テキストでは得られない保育知識を身につけ、スキルを向上させていく。今後どんな保育をしたいのか、どのような教師になりたいか、実習を通して具体的な目標を見つけ保育への志望を再確認していく。		
授業の 到達目標	教育実習が円滑かつ有意義におこなえるよう、日々の目標を明らかにし、意欲を高め反省もし、自己の成長を感じ職業としての意欲を高める。		
授業の 計画	<p>1 観察実習：一日の流れ、幼児の実態、教師の動き等</p> <p>2年次で体験した実習を再確認していく</p> <p>物的環境 地理的環境 教材の状況</p> <p>人的環境 沿革と保育方針</p> <p>乳幼児の構成とクラス編成</p> <p>教職員の構成</p> <p>幼児の実態、教師の職務内容</p> <p>保育の流れについての理解</p> <p>各々の目的・視点を定めた観察</p> <p>日々の日誌の中で、己を反省し、 目的ある観察を行う</p> <p>↓</p> <p>参加実習：十分に観察・理解をした後に</p> <p>一人一人の子どもを知ろうと しながら、かかわりを探る。</p> <p>↓</p> <p>90</p>	<p>91 責任実習：教師の立場を身をもって 理解し、責任ある保育実践を 実施する。</p> <p>◎部分実習</p> <p>◎1日実習</p> <p>担任教師の保育計画の理解</p> <p>保育計画に基づいた指導案の立案</p> <p>幼児の動きの予想</p> <p>環境構成の工夫</p> <p>集団・個々を意識した指導</p> <p>児童文化財や教材の扱い</p> <p>↓</p> <p>◎反省会</p> <p>↓</p> <p>## 実習のまとめ、反省</p>	
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	「教育実習事前指導」近畿大学九州短期大学／知りたいときにすぐわかる実習ガイド		
評価の方法 や基準	実習先の評価を参考にする		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="radio"/>		
実務経験	保育所・幼稚園で保育者として勤務		
実務経験の 活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		
履修上の 注意事項			

授業科目	教育実習事前事後指導（スクーリング）	単位／時間	1／15
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的 ・テーマ	教育実習が円滑かつ有意義に行えるよう、実習に関わる基礎的な知識の理解を深める。① 幼児期の発達段階 ② 幼稚園の機能と役割 ③ 幼稚園教諭の職務と役割 ④ 観察記録の作成方法 ⑤ 指導計画の立案方法		
授業の到達目標	教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。実習日誌の作成、指導計画の立案の方法を理解する。「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。		
授業の計画	1 幼稚園の機能と役割 法的根拠 取り巻く状況	26	
	2 幼稚園教諭の職務と役割	27	
	3 幼児期の発達課題と生活環境 家庭との連携	28	
	4 課題を明確にして教育実習に取り組むために	29	
	5 実習時の幼児の姿と活動のポイント	30	
	6 実習日誌について	31	
	7 実習課題・目標の設定	32	
	8 指導計画の作成の方法①	33	
	9 「朝の会」「昼食指導」の指導計画	34	
	10 指導計画の作成の方法②	35	
	11 「中心となる活動」の指導計画	36	
	12 教材研究	37	
	13	38	
	14 評価・反省	39	
	15 まとめの課題	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	
授業の方法	講義 演習		
テキスト/参考文献	教育実習事前事後指導（近畿大学九州短期大学）		
評価の方法 や基準	態度 課題 レポート		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="radio"/>		
実務経験	保育所・幼稚園で保育者として勤務		
実務経験の活かし方	幼稚園教諭として経験してきた、子ども達とのかかわり方、保護者とのかかわり方など、体験を実例としてあげ、幼児教育が学生たちに一層身近に感じられるようにしたい。教育実習においては、受け入れる園側からの望まれる実習生の姿など伝えていきたい。		
履修上の注意事項	手遊び、歌遊び、ゲームなどレパートリーを増やしておくこと		

授業科目	保育実習Ⅱ	単位／時間	2単位／90時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的 ・テーマ	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようにつながるかを体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を確立していくために行う。		
授業の 到達目標	「保育実習Ⅰ」を通して学んだことを踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術を向上させる。		
授業の 計画	1	見学実習：実習を行う保育所の概要を知る	46
		物的環境	保育者の補助的活動を行い、
		地理的環境	保育を体験的に理解する。
		建物の構造、設備の配置	
		教材の状況	
		人的環境	
		沿革と保育方針	
		乳幼児の構成とクラス構成	
		教職員の構成	
		↓	
		観察実習：乳幼児の実態、保育者の援助	
		保育の流れについて理解する	
		↓	
		観察の視点	責任実習：保育者の立場を身をもって
		年齢別の発達の特徴	理解する。
		遊びの内容	◎部分実習
		遊びの変化	1日のうちで、ある部分的な
		子ども同士のかかわり	活動を担当するもの
	45	子どもの個性	◎1日実習
		保育者の仕事	1日の保育全体を担当するもの
		年齢別のかかわり方	
		一人一人へのかかわり方	
		複数の子どもへのかかわり方	
		保育の展開、環境の工夫	↓
			90 実習の振り返り、まとめ
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	「保育実習事前指導」近畿大学九州短期大学／知りたいときにすぐわかる実習ガイド		
評価の方法 や基準	現場からの実習評価票による		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	保育所・幼稚園で保育者として勤務		
実務経験の 活かし方	保育現場で経験してきたことを活かし、子どもたちとのかかわり方や保護者とのかかわり方、日誌の記入方法等の具体的説明を踏まえながら進めていく。		
履修上の 注意事項	最後の実習として、今まで学習してきたことを十分に活かせるよう、事前学習と準備をし、目的を持って実習に臨むこと。		

授業科目	保育実習事前事後指導Ⅱ	単位／時間	1 単位/ 15 時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的 ・テーマ	これまでの学びを実習を通して実践へつなげ、自己評価と保育者としての自己課題について考察する。		
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実習や学習した内容を踏まえ、保育所や子ども、家庭・保護者支援などについて理解を深める。 実習日誌の記録や指導案の立案など深みのあるものにする。 今後の保育者としての自己課題を明確化する。 		
授業の 計画	1 保育実習Ⅰの振り返り	26	
	2 保育実習Ⅱの目的・意義について	27	
	3 ↓	28	
	4 保護者・家庭への支援について	29	
	5 ↓	30	
	6 地域社会との連携について	31	
	7 教材研究・指導案	32	
	8 ↓	33	
	9 ↓	34	
	10 ↓	35	
	11 ↓	36	
	12 ↓	37	
	13 実習目標の策定	38	
	14 ↓	39	
	15 まとめ	40	
	16 ↓	41	
	17 ↓	42	
	18 ↓	43	
	19 ↓	44	
	20 ↓	45	
	21 ↓	46	
	22 ↓	47	
	23 ↓	48	
	24 ↓	49	
	25 ↓	50	
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	「知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」		
評価の方法 や基準	授業への積極的な態度・課題等の提出による。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="checkbox"/>		
実務経験	保育所で保育士として勤務。		
実務経験の 活かし方	保育現場での子どもの発達・遊びや保育の様子などを、分かりやすく事例に出しながら伝える。		
履修上の 注意事項	事前学習をしておくこと。		

授業科目	レッスンⅢ		単位／時間	1 単位／30 時間
開講学科等	福祉保育学科3年		担当教員	岡田 慶子
授業の目的 ・テーマ	実習に向けて活用できる季節の曲の弾き歌いを練習し、就職試験でも弾けるような曲を修得する。			
授業の 到達目標	各々の実習先や就職先で修得した曲を利用できる。			
授業の 計画	1	オリエンテーション	26	自己選択課題曲練習・チェック
	2	実習に向けての楽譜作り	27	
	3	課題曲練習とチェック	28	
	4		29	
	5		30	↓
	6		31	
	7		32	
	8		33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15	↓	40	
	16	各実習先の課題曲練習・チェック	41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25	↓	50	
授業の方法	各自で練習しながら、個人レッスンを行う。			
テキスト/参考文献	担当配布資料			
評価の方法 や基準	出欠席(50%) 授業意欲・態度(30%) 進度状況(20%) の総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="checkbox"/>			
実務経験	保育士・幼稚園教諭・保育教諭			
実務経験の 活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いながら現場で役に立つピアノ技術の向上を目指す学生を育成する。			
履修上の 注意事項	テキスト、ヘッドフォンを持参。授業以外にも各自での練習に励むこと。			

授業科目	音楽一般	単位／時間	1単位/ 30 時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	山中 春奈
授業の目的 ・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 保育現場の音楽指導で扱われている楽器に触れ、使い方や音の出し方について学ぶ 器楽合奏を通して、協調性を養うと共に音楽的能力の向上を図る 		
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 曲のイメージや演奏方法を考え共有し、音楽への感性を深める 選曲した合奏曲を授業内で考えた曲想に合わせ演奏する 楽器の正しい扱い方を習得する 		
授業の 計画	1 オリエンテーション 選曲について	26	
	2 楽器の正しい持ち方・鳴らし方について	27	
	3 曲について 楽曲分析（講義）	28	合奏練習
	4 指揮について（講義）	29	
	5 指揮について（演習）	30	発表
	6 曲について（演習）	31	
	7 器楽合奏の選曲 楽器のパート分け 練習	32	
	8	33	
	9	34	
	10 合奏練習	35	
	11	36	
	12 曲想について	37	
	13	38	
	14	39	
	15	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19 合奏練習	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	
授業の方法	講義と楽器を使用しての演習		
テキスト/参考文献	『音楽（理論）』 近畿大学九州短期大学		
評価の方法 や基準	出欠席（30%） 授業態度（20%） 試験（50%）の総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="checkbox"/>		
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の 活かし方	保育の現場で使われる楽器を基に、音楽発表会などで指導に携わることができる学生を育成する。		
履修上の 注意事項	授業以外でも、各自での練習に励むこと。		

授業科目	保育研究III	単位／時間	1 / 1 5
開講学科等	福祉保育学科 3 年	担当教員	瀬川 佳津江
授業の目的 ・テーマ	3年間の学習を通しての経験をベースに、気持ちや感情を引き出す身体表現を実践する。		
授業の 到達目標	テーマ持ち、作品（創作）を作る。		
授業の 計画	1 保育士の基本運動（ストレッチ）	26	
	2 感覚をめざめさせるエクササイズ	27	
	3 リ	28	
	4 課題設定についての話し合い	29	
	5 表現内容が引き立つには	30	
	6 イメージを広げる	31	
	7 作品作り（卒業発表お手伝い）	32	
	8 ↑ 個人表現	33	
	9 グループ表現	34	
	10 全体表現	35	
	11	36	
	12	37	
	13	38	
	14 ↓	39	
	15 発表	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	
授業の方法	実技実践		
テキスト/参考文献	なし		
評価の方法 や基準	実技試験、出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	体操競技ジュニア大会選手指導・高知国体式典振り付け指導・子どもミュージカル指導		
実務経験の 活かし方	学生の表現や動きから、個性や性格を感じ取り表現の楽しさを味わわせることにより、心を解放させていきたい。		
履修上の 注意事項	特に無し		

授業科目	実習指導III	単位／時間	2単位／30時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的 ・テーマ	保育実習を通して学んだ技術や理論を基盤とし、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する。また報告書、報告会を通じて実習園の特徴、自分達の実践を後輩に知らせるこことにより、実践の深さ、大切さを知らせる。		
授業の 到達目標	実習の目的や心構えなど、学生一人一人が実習内容をイメージできることや、実習の振り返りをしながら次の自分の目標・課題を見出す。		
授業の 計画	1 福祉施設についての理解(基本事項を学ぶ)	26	実習園についての理解、環境把握
	2 施設実習の位置づけ、意義、目的について	27	事後指導
	3 1) 実習園について(施設の概要、環境など)	28	報告書の作成
	4 2) 個人調査表その他提出物の作成	29	考察について
	5 3) オリエンテーションについて	30	実習の総括的まとめ
	6 1日の流れ、援助の仕方、服務規程等	31	
	7 実習日誌の書き方	32	
	8 実習事前準備	33	
	9 実習事後	34	
	10 提出物の確認・お礼状の送付	35	
	11 実習に対する反省・まとめ	36	
	12 自己評価・課題の発見	37	
	13 報告書、報告会について (話し合い)	38	
	14 報告会	39	
	15 報告会反省会	40	
	16 教育実習について	41	
	17 1) 実習園についての理解・オリエンテーションについて	42	
	18 実習提出物準備	43	
	19 日誌の書き方	44	
	20 日誌の書き方 (内容・留意点など)	45	
	21 指導案の書き方・作成	46	
	22 //	47	
	23 実習事後 (お礼状の作成、反省と考察)	48	
	24 報告書の作成	49	
	25 保育実習IIについて	50	
授業の方法	学生の習得状況を確認しながら進めていく。模擬保育を通して指導案の立て方を学ぶ。		
テキスト/参考文献	『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』		
評価の方法 や基準	授業態度・提出物・出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	保育所・幼稚園で保育者として勤務		
実務経験の 活かし方	保育現場で経験してきたことを活かし、子どもたちとのかかわり方や保護者とのかかわり方、日誌の記入方法等の具体的説明を踏まえながら進めていく。		
履修上の 注意事項	今まで習得してきた学習内容を振り返りながら、実習内容と繋げていく。		

授業科目	教育課程	単位／時間	2単位 / 30時間
開講学科等	福祉保育学科3年生	担当教員	山下 昌世
授業の目的 ・テーマ	教育課程（保育課程）とは。それは、なぜ必要なのかを学び、その意義や成り立ちを理解した上で実際に指導計画を作成する。		
授業の 到達目標	学んだ教育課程（保育課程）に基づき、実習の場で計画し、実践演習を行う。その実践とともに反省・評価を行い保育の連続性を大事に次の保育に活かす体験をする。		
授業の 計画	1 「教育課程」 学習ガイダンス	26	『保育者の役割』について考える
	2 保育の基本について	27	
	3 保育で重視していること	28	教育（保育）の質の向上について考える
	4 「教育課程」・「全体的な計画」と指導計画①	29	(みかんの法則 / 小1 プロブレム)
	5 「教育課程」・「全体的な計画」と指導計画②	30	まとめ
	6 幼稚園の理解	31	
	7 3~5歳児の特徴と保育Ⅰ	32	
	8 3~6歳児の特徴と保育Ⅱ	33	
	9 幼稚園の部分指導計画の作成①	34	
	10 幼稚園の部分指導計画の作成②	35	
	11 幼稚園の部分指導計画の作成③	36	
	12 幼稚園の全日の指導計画の作成①	37	
	13 幼稚園の全日の指導計画の作成②	38	
	14 幼稚園の全日の指導計画の作成③	39	
	15 教育実習に向けて	40	
	16 教育実習の振り返りと次の実習に向けた指導計画	41	
	17 保育所における保育課程と保育の実際	42	
	18 保育所での部分指導計画の作成	43	
	19	44	
	20	45	
	21 『インクルーシブ教育』について考える	46	
	22 　・特性をどのように捉えるのか	47	
	23 　・障害種類について	48	
	24 　・特別支援教育	49	
	25 『保育者の見守り支援』について考える	50	
授業の方法	一斉授業・班学習（討議、発表、レポート）		
テキスト/参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携方認定こども園教育・保育要領解説		
評価の方法 や基準	実技・筆記試験、レポート、演習、平素の学習態度（出席状況を含む）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="checkbox"/>		
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の 活かし方	幼稚教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		
履修上の 注意事項	実習体験（現場）を頭に描きながら、聴講できる姿勢をつくる。		

授業科目	卒業研究		単位／時間	2単位／75時間
開講学科等	福祉保育学科3年		担当教員	岡田 慶子
授業の目的 ・テーマ	卒業発表に向け全員が力をあわせ取り組む中で、個々の態度や言動を振り返り、お互いを認め合う心を持つ。また、意見交換や研究協議を重ね一つ一つのプロセスを大切にしながら、保育の基本姿勢を培う。			
授業の 到達目標	学生生活の集大成に向け取り組む中で、お互いを認め合う。今までの学校生活を応援してくれた人や発表会に見に来てくださったお客様に感謝をして発表する。			
授業の 計画	1	子ども未来学科2年生との顔合わせ	26	準備・練習・作成・話し合い
	2	取り組みについての話し合い	27	
	3	役割分担	28	
	4	進度表の作成テーマ	29	↓
	5	演目の話し合い	30	振り返り・今後の課題・スケジュール確認
	6	情報収集・意見交換・内容話し合い	31	反省と展望
	7	★準備・話し合い・製作・練習	32	
	8		33	練習・準備
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15		40	
	16	準備・作成・練習・話し合い	41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	↓
	20		45	通し練習
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	↓
授業の方法	話し合い、制作活動、実技			
テキスト/参考文献	台本（学生作成）必要に応じて隨時紹介			
評価の方法 や基準	出席率・授業意欲・授業態度			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="checkbox"/>			
実務経験	保育士・幼稚園教諭・保育教諭			
実務経験の 活かし方	現場での実際の事例を用いて具体的な説明による理解や現場で実践できる指導方法を伝えることで専門職としての向上を目指す学生を育成する。			
履修上の 注意事項	学生一人一人が自分の意見を提案しながら進められるようにする。			

授業科目	卒業研究		単位／時間	2単位／75時間
開講学科等	福祉保育学科 3年		担当教員	岡田 慶子
授業の目的 ・テーマ	卒業研究発表会に向け全員が力をあわせ取り組む中で、個々の態度や言動を振り返り、お互いを認め合う。また、意見交換や研究協議を重ね一つ一つのプロセスを大切にしながら、保育の基本姿勢を培う。			
授業の 到達目標	学生生活の集大成に向け取り組む中で、お互いを認め合う。今までの学校生活を応援してくれた人や発表会を見に来てくださった実習先の先生方などに感謝をして発表する。			
授業の 計画	51	通し練習	76	
	52		77	
	53		78	
	54		79	
	55		80	
	56		81	
	57		82	
	58		83	
	59		84	
	60		85	
	61		86	
	62		87	
	63		88	
	64		89	
	65		90	
	66		91	
	67	↓	92	
	68	リハーサル	93	
	69		94	
	70		95	
	71		96	
	72		97	
	73	↓	98	
	74	最終チェック	99	
	75	本番	##	
授業の方法	話し合い、制作活動、実技			
テキスト/参考文献	台本（学生作成）必要に応じて随時紹介			
評価の方法 や基準	出席率・授業意欲・授業態度			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="radio"/>			
実務経験	保育士・幼稚園教諭・保育教諭			
実務経験の 活かし方	現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や現場で実践できる指導方法を伝えることで専門職としての向上を目指す学生を育成する。			
履修上の 注意事項	学生一人一人が自分の意見を提案しながら進められるようにする。			

授業科目	パソコン実習Ⅱ		単位／時間	1／30時間
開講学科等	福祉保育学科3年		担当教員	吉井 多絵
授業の目的 ・テーマ	ビジネスの場で求められるWord、Excel、PowerPointの操作、ビジネスメールについて学ぶ。 パソコンの便利な使い方とともに基本的なビジネスマナーについても学ぶ。			
授業の 到達目標	ビジネスの場でパソコンをツールとして使いこなせるようになる。			
授業の 計画	1	ガイダンス	26	復習と課題【Word編】
	2	【Word・PowerPoint】復習	27	復習と課題【Word編】
	3	〃	28	復習と課題【Excel編】
	4	【PowerPoint】効果的なプレゼンとは	29	復習と課題【Excel編】
	5	〃	30	復習と課題【PowerPoint編】
	6	【PowerPoint】実践作業	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	【PowerPoint】プレゼンリハーサル	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	前期まとめ課題	38	
	14	〃	39	
	15	〃	40	
	16	【Excel】関数復習	41	
	17	【Excel】グラフ機能	42	
	18	【Excel】グラフ機能	43	
	19	【Excel】データベース機能	44	
	20	【Excel】データベース機能	45	
	21	【Excel】複数シートの操作、印刷	46	
	22	【Excel】複数シートの操作、印刷	47	
	23	【差込印刷】DMレターと宛名ラベル	48	
	24	【差込印刷】DMレターと宛名ラベル	49	
	25	【差込印刷】年賀状、DM用はがき	50	
授業の方法	パソコンを使用した実習			
テキスト/参考文献	よくわかるWord2019& Excel2019& PowerPoint2019 (FOM出版)			
評価の方法 や基準	提出課題、授業態度、出席率			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	パソコン教室、職業訓練校、専門学校、一般企業、官公庁、医療機関等にてパソコン講師。			
実務経験の 活かし方	様々な業種や多分野での講師経験を活かし、実社会で求められるスキルをレクチャーします。			
履修上の 注意事項	テキスト・筆記用具持参、メールアドレス準備 (※パスワード確認のこと)			

授業科目	青年心理学	単位／時間	2／30
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	合田 佳子
授業の目的・テーマ	青年期の発達課題を学び、発達の連続性を見通して支援を行える知識と態度を学ぶ。また、自己理解と受容を深め、対人援助者としての資質向上を目指す。		
授業の到達目標	毎時間のテーマについて、その背景にある心理的内面について探求する。また、社会の構成員としての自己の役割を模索する。さらに、他者との関わりや思いやりについて、考察を深める。		
授業の計画	1 青年期とは	26	青年期の対人関係と不適応
	2 青年期における変化	27	思春期の悩みと病
	3 思春期・青年期の身体的発達	28	ストレスや不安と対処行動
	4 思春期・青年期の感情・認知・思考の発達	29	大人になること・多様化する価値観との関係
	5 自尊感情と自己嫌悪感	30	青年期と自己理解・自己実現
	6 視点取得の発達と時間的展望	31	
	7 自己意識の形成	32	
	8 理想自己と現実自己	33	
	9 アイデンティティの発達	34	
	10 パーソナリティ	35	
	11 青年期と対人関係の変化	36	
	12 青年期の親子関係・家族関係	37	
	13 友人関係の発達的变化	38	
	14 青年期の友人関係	39	
	15 生涯発達の中の青年期	40	
	16 青年期の恋愛の発達	41	
	17 青年期の恋愛関係	42	
	18 青年期と学校	43	
	19 学びと主体性	44	
	20 多様な価値観と異質性との出会い	45	
	21 青年のキャリア発達	46	
	22 学校から仕事への移行	47	
	23 学校での人間関係	48	
	24 非行・問題行動	49	
	25 青年と現代社会	50	
授業の方法	講義及び演習		
テキスト/参考文献	「心のなかはどうなっているの？」高校生の「なぜ」に答える心理学 日本青年心理学会		
評価の方法や基準	筆記試験及び、レポート提出(60%)、授業態度(出席状況を含む)(20%)、意欲、関心(20%)		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する。	○		
実務経験	高知県心の教育センター指導主事、チーフとして9年間勤務し、幼児期から思春期の子どもの支援に携わる。 公認心理師、学校心理士、ガイダンスカウンセラー、特別支援教育士		
実務経験の活かし方	テキストの内容だけでなく、児童及び青年期を取り巻く様々な事例を紹介するなかで、その背景や心理的内面を探求し、保育士としての資質向上を図っていく。		
履修上の注意事項			

授業科目	高齢者福祉	単位／時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科 3年	担当教員	土居 光世
授業の目的 ・テーマ	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学び、高齢者福祉制度の発展過程について理解する。また、高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。		
授業の 到達目標	高齢者福祉制度の概要を理解し、措置から契約制度への流れを説明することができる。高齢者における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。		
授業の 計画	1 高齢者の定義と特性	26	高齢者と家族等に対する支援の実際②
	2 高齢者の生活実態	27	高齢者と家族等に対する支援の実際③
	3 高齢者を取り巻く社会環境①	28	高齢者と家族等に対する支援の実際④
	4 高齢者を取り巻く社会環境②	29	高齢者と家族等に対する支援の実際⑤
	5 高齢者福祉の歴史的展開①	30	まとめ
	6 高齢者福祉の歴史的展開②	31	
	7 高齢者福祉の歴史的展開③	32	
	8 高齢者福祉の歴史的展開④	33	
	9 介護保険制度①	34	
	10 介護保険制度②	35	
	11 介護保険制度③	36	
	12 介護保険制度④	37	
	13 介護保険制度⑤	38	
	14 介護保険制度⑥	39	
	15 高齢者に対する法制度①	40	
	16 高齢者に対する法制度②	41	
	17 高齢者に対する法制度③	42	
	18 高齢者に対する法制度④	43	
	19 高齢者に対する法制度⑤	44	
	20 高齢者に対する法制度⑥	45	
	21 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①	46	
	22 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②	47	
	23 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割③	48	
	24 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割④	49	
	25 高齢者と家族等に対する支援の実際①	50	
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	最新・社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉 中央法規		
評価の方法 や基準	出席率、授業姿勢、筆記試験、レポート、その他提出物等		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会（地域福祉の推進・相談業務等） ・居宅介護支援事業所（管理者・主任介護支援専門員） ・地域包括支援センター（総合相談・権利擁護・高齢者虐待・地域ケア会議・多職種ネットワークの構築等） 		
実務経験の 活かし方	高齢者の生活とニーズ、現在発生している高齢者をとりまく諸課題にも焦点をあて、高齢者が主体者としての幸せや長寿社会への道を考えることができる授業を行って行く。		
履修上の 注意事項	該当するテキスト箇所を読み、予習復習して下さい。		

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法	単位／時間	4単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科 3年	担当教員	土居 光世
授業の目的 ・テーマ	社会福祉援助技術の具体的な展開過程・内容についても学習し、社会福祉専門職として利用者と向き合う際に不可欠な知識・技術を身につける。		
授業の 到達目標	ソーシャルワークにおいて基盤となる様々な理論について理解し、ソーシャルワークを展開する上で必要な視点について説明できる。		
授業の 計画	1 はじめに	26	ソーシャルワークの過程（プランニング⑥）
	2 ソーシャルワークの理論の概要	27	ソーシャルワークの過程（モニタリング①）
	3 システム理論①	28	ソーシャルワークの過程（モニタリング②）
	4 システム理論②	29	ソーシャルワークの過程（アフターケア①）
	5 生態学理論①	30	ソーシャルワークの過程（アフターケア②）
	6 生態学理論②	31	ソーシャルワークの実践モデル①
	7 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル①	32	ソーシャルワークの実践モデル②
	8 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル②	33	ソーシャルワークの実践モデル③
	9 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるショーシャルワーク①	34	ソーシャルワークの実践モデル④
	10 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるショーシャルワーク②	35	ソーシャルワークの実践モデル⑤
	11 ソーシャルワークの目標と展開①	36	ソーシャルワークの実践モデル⑥
	12 ソーシャルワークの目標と展開②	37	ソーシャルワークの実践モデル⑦
	13 ソーシャルワークの過程（ケース発見）	38	ソーシャルワークの実践モデル⑧
	14 ソーシャルワークの過程（インテーク①）	39	ソーシャルワークの実践モデル⑨
	15 ソーシャルワークの過程（インテーク②）	40	ソーシャルワークの実践モデル⑩
	16 ソーシャルワークの過程（アセスメント①）	41	ソーシャルワークの実践モデル⑪
	17 ソーシャルワークの過程（アセスメント②）	42	ソーシャルワークの実践モデル⑫
	18 ソーシャルワークの過程（アセスメント③）	43	ソーシャルワークの面接①
	19 ソーシャルワークの過程（アセスメント④）	44	ソーシャルワークの面接②
	20 ソーシャルワークの過程（アセスメント⑤）	45	ソーシャルワークの記録①
	21 ソーシャルワークの過程（プランニング①）	46	ソーシャルワークの記録②
	22 ソーシャルワークの過程（プランニング②）	47	ケアマネジメント①
	23 ソーシャルワークの過程（プランニング③）	48	ケアマネジメント②
	24 ソーシャルワークの過程（プランニング④）	49	グループを活用した支援①
	25 ソーシャルワークの過程（プランニング⑤）	50	グループを活用した支援②
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	最新・社会福祉養成講座 12 「相談援助の理論と方法 共通科目」 中央法規		
評価の方法 や基準	出席率、授業姿勢、筆記試験、レポート、その他提出物等		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="checkbox"/>		
実務経験	• 社会福祉協議会（地域福祉の推進・相談業務等） • 居宅介護支援事業所（管理者・主任介護支援専門員） • 地域包括支援センター（総合相談・権利擁護・高齢者虐待・地域ケア会議・多職種ネットワークの構築等）		
実務経験の 活かし方	ソーシャルワークの理論と方法について具体的に理解が深まるよう、事例研究・考察を行い、現場で活用できるよう学習を進める。		
履修上の 注意事項	該当するテキスト箇所を読み、予習復習して下さい。		

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法	単位／時間	4単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科 3年	担当教員	土居 光世
授業の目的 ・テーマ	社会福祉援助技術の具体的な展開過程・内容についても学習し、社会福祉専門職として利用者と向き合う際に不可欠な知識・技術を身につける。		
授業の 到達目標	ソーシャルワークにおいて基盤となる様々な理論について理解し、ソーシャルワークを開発する上で必要な視点について説明できる。		
授業の 計画	51 コミュニティワーク①	76	
	52 コミュニティワーク②	77	
	53 ソーシャルアドミニストレーション	78	
	54 ソーシャルアクション	79	
	55 スーパービジョンとコンサルテーション①	80	
	56 スーパービジョンとコンサルテーション②	81	
	57 まとめ	82	
	58 まとめ	83	
	59 振り返り	84	
	60 振り返り	85	
	61	86	
	62	87	
	63	88	
	64	89	
	65	90	
	66	91	
	67	92	
	68	93	
	69	94	
	70	95	
	71	96	
	72	97	
	73	98	
	74	99	
	75	100	
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	最新・社会福祉養成講座 1 2 「相談援助の理論と方法 共通科目」 中央法規		
評価の方法 や基準	出席率、授業姿勢、筆記試験、レポート、その他提出物等		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input checked="" type="radio"/>		
実務経験	・社会福祉協議会（地域福祉の推進・相談業務等） ・居宅介護支援事業所（管理者・主任介護支援専門員） ・地域包括支援センター（総合相談・権利擁護・高齢者虐待・地域ケア会議・多職種ネットワークの構築等）		
実務経験の 活かし方	ソーシャルワークの理論と方法について具体的に理解が深まるよう、事例研究・考察を行い、現場で活用できるよう学習を進める。		
履修上の 注意事項	該当するテキスト箇所を読み、予習復習して下さい。		

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	単位／時間	4単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的 ・テーマ	①多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 ②援助関係の形成やニーズに掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 ③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 ④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。		
授業の 到達目標	①ソーシャルワークにおける援助関係の形成 ②ソーシャルワークにおける社会資源の活用 ③ネットワークの形成 ④ソーシャルワークに関する方法 ⑤カンファレンス ⑥事例分析 ⑦ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 ①～⑥を理解する		
授業の 計画	1 ソーシャルワーカーの具体的な事例	26	再アセスメントと支援の強化③
	2 定義と枠組み	27	支援の終結と効果測定、評価、アフターケア
	3 ソーシャルワークを構成する要素	28	予防的対応とサービス開発
	4 ソーシャルワークが所属する組織	29	相談援助のためのアウトリーチの技術
	5 ソーシャルワークの構造	30	アウトリーチの意義と目的
	6 ソーシャルワークにおけるニーズ	31	アウトリーチの方法と留意点
	7 ソーシャルワークの機能	32	ソーシャルワークのための契約の技術
	8 人と環境の交互作用	33	契約の意義と目的
	9 援助関係における意義	34	契約の方法と留意点
	10 援助関係の形成プロセスに影響する要因	35	ソーシャルワークのためのアセスメントの技術
	11 援助構造と援助関係	36	ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助関係、面接
	12 自己覚知	37	アセスメントで得るべき情報16項目と視覚化できるアセスメントツール
	13 ミクロ・マクロ・メゾ実践領域	38	アセスメント面接で得た情報の使い方
	14 ソーシャルワークの展開過程の流れ	39	相談援助のための介入の技術
	15 事例を通して受理面談	40	介入の意義と目的
	16 問題把握からニーズ確定まで	41	介入の方法と留意点
	17 ニーズ確定から事前評価まで	42	相談援助のための経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術
	18 アセスメント	43	経過観察
	19 カンファレンス	44	再アセスメントと支援の強化
	20 事前評価から支援標的・目標設定まで支援	45	効果測定
	21 支援計画の作成	46	評価とサービス開発
	22 支援計画に実施	47	ソーシャルワークのための面接の技術
	23 モニタリング	48	ソーシャルワークにおける面接の目的
	24 再アセスメントと支援の強化①	49	ソーシャルワークにおける面接の展開
	25 再アセスメントと支援の強化②	50	面接において用いる技術とコミュニケーション
授業の方法	講義・グループワーク・ロールプレイ		
テキスト/参考文献	最新社会福祉士養成講座『6ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門]』中央法規		
評価の方法 や基準	出席状況、授業態度、レポート、筆記試験		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="radio"/>		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）		
実務経験の 活かし方	ソーシャルワークの理論と方法について具体的に理解が深まるよう、事例研究・考察を行い、現場で活用できるよう学習を進める。		
履修上の 注意事項	実習での経験、授業での事例を通して、ソーシャルワークの実際を学ぶ。		

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	単位／時間	4単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的 ・テーマ	①多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 ②援助関係の形成やニーズに掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 ③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 ④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。		
授業の 到達目標	①ソーシャルワークにおける援助関係の形成 ②ソーシャルワークにおける社会資源の活用 ③ネットワークの形成 ④ソーシャルワークに関連する方法 ⑤カンファレンス ⑥事例分析 ⑦ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 ①～⑥を理解する		
授業の 計画	51 ソーシャルワークにおける対象の理解面接の形態	76	
	52 記録の意義とその活用目的	77	
	53 交渉の方法と留意点	78	
	54 プレゼンテーションの技術	79	
	55 社会資源の活用	80	
	56 事例考察によるアプローチの理解①	81	
	57 事例考察によるアプローチの理解①	82	
	58 カンファレンス・ネットワーキング	83	
	59 包括的な支援	84	
	60 まとめ	85	
	61	86	
	62	87	
	63	88	
	64	89	
	65	90	
	66	91	
	67	92	
	68	93	
	69	94	
	70	95	
	71	96	
	72	97	
	73	98	
	74	99	
	75	100	
授業の方法	講義・グループワーク・ロールプレイ		
テキスト/参考文献	『ソーシャルワークの理論と方法①』中央法規		
評価の方法 や基準	出席状況、授業態度、レポート、筆記試験		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="radio"/>		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）		
実務経験の 活かし方	ソーシャルワークの理論と方法について具体的に理解が深まるよう、事例研究・考察を行い、現場で活用できるよう学習を進める。		
履修上の 注意事項	実習での経験、授業での事例を通して、ソーシャルワークの実際を学ぶ。		

授業科目	地域福祉と包括的支援体制②	単位／時間	2／30
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	安岡 航
授業の目的・テーマ	地域福祉の歴史的展開を踏まえて、現代の地域福祉の概要からソーシャルサポートネットワークの考え方、コミュニティソーシャルワークの機能、地域でのトータルケア等を学習する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスに関する制度、資格、施設の現場、支援の実際等々を理解する。 ・地域福祉の理論と方法に関する概要を理解する。 		
授業の計画	1 住民の代表制と参加方法	26	福祉サービスの評価と方法と実際
	2 ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置①	27	福祉サービスのプログラム評価とその展開
	3 ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置②	28	災害支援と地域福祉
	4 ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ	29	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方
	5 事例から読み解くソーシャルサポート	30	まとめ
	6 社会資源の概要①	31	
	7 社会資源の概要②	32	
	8 社会資源の活用法とコーディネートの方法①	33	
	9 社会資源の活用法とコーディネートの方法②	34	
	10 ニーズ対応型福祉サービスの開発①	35	
	11 ニーズ対応型福祉サービスの開発②	36	
	12 税制優遇と助成金の活用	37	
	13 福祉でまちづくりとソーシャルアクション	38	
	14 地域福祉におけるアウトリーチの意義	39	
	15 福祉ニーズを社会ニーズからとらえる	40	
	16 質的な福祉ニーズの把握方法と実際	41	
	17 量的な福祉ニーズの把握方法と実際	42	
	18 地域トータルケアシステムの必要性と考え方①	43	
	19 地域トータルケアシステムの必要性と考え方②	44	
	20 地域トータルケアシステムの展開方法①	45	
	21 地域トータルケアシステムの展開方法②	46	
	22 地域トータルケアシステムの事例	47	
	23 ソーシャルケア従事者と研修と組織化	48	
	24 福祉サービスの評価を必要とする背景	49	
	25 評価の考え方	50	
授業の方法	テキストに基づく講義、演習等		
テキスト/参考文献	最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士講座6 「地域福祉と包括支援体制」 (中央法規出版)		
評価の方法や基準	筆記試験もしくはレポートにより理解度を評価する。加えて出席数と講義中の態度も評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記入する。	○		
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援施設 障害児通所支援サービス（主任） ・障害者就労支援施設（サービス管理責任者） 相談支援専門員 		
実務経験の活かし方	制度、資格、施設の現場、支援の実際等々、具体的な事例を含めて説明する。 地域福祉の理論と方法の実際を現場の実践をつうじて具体的に説明する。		
履修上の注意事項	授業に関する課題（情報収集や演習課題）を出す場合あり。		

授業科目	貧困に対する支援	単位／時間	2／30
開講学科等	保育福祉学科3年	担当教員	近藤 多美
授業の目的 ・テーマ	1、公的扶助の歴史展開について理解する。 2、生活保護制度・低所得者対策について理解する。 3、生活保護の動向について理解する。		
授業の 到達目標	1、生活保護は誰もがなってしまう可能性があることを理解する。 2、社会保障制度の理解をする。 3、低所得者、生活保護者の支援の方法を理解する。		
授業の 計画	1 生存権と法的扶助	26	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動①
	2 公的扶助の概念と範囲	27	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動②
	3 公的扶助の意義と役割	28	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動③
	4 現代の貧困・低所得者の問題	29	自立支援プログラムの意義と実際自立支援
	5 貧困・低所得者を取り巻く社会情勢	30	まとめ
	6 貧困・低所得者の生活実態と社会福祉ニーズ	31	
	7 公的扶助制度の歴史－海外の歴史－	32	
	8 公的扶助制度の歴史－日本の歴史－	33	
	9 貧困・低所得者対策の近年の動向	34	
	10 生活保護法の目的、基本理念、基本原則	35	
	11 生活保護の種類と内容	36	
	12 保護施設	37	
	13 被保護者の権利と義務	38	
	14 不服申し立てと行政訴訟	39	
	15 生活保護の財源・予算	40	
	16 生活保護基準の考え方	41	
	17 生活保護基準の実際	42	
	18 生活保護水準の実際	43	
	19 被保護人員数・被保護世帯数	44	
	20 生活保護の開始理由・廃止理由	45	
	21 医療扶助・介護扶助	46	
	22 低所得者対策①	47	
	23 低所得者対策②	48	
	24 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体①	49	
	25 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体②	50	
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	新・社会福祉士養成講座16 「低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助論」中央法規		
評価の方法 や基準	出席率、授業態度、レポート、発表、筆記試験		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="checkbox"/>		
実務経験	在宅介護支援センター相談業務		
実務経験の 活かし方	低所得者や生活保護受給者の実際の現状の事例を用いて授業内容を深める。		
履修上の 注意事項	特に無し		

授業科目	福祉サービスの組織と経営	単位／時間	2／30
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	安岡 航
授業の目的 ・テーマ	社会福祉施設は、措置から契約への移行により、経営の考え方が導入されると同時にサービスの質も問われるという現実に直面している。民間企業も参入する中、経営者の立場から社会福祉運営管理や労働環境の整備を学び、施設が抱える課題についてより深く考える視点を養う。		
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスに関する制度、資格、施設の現場、支援の実際等々を理解する。 ・福祉サービスの組織と経営（施設運営）に関する概要を理解する。 		
授業の 計画	1 オリエンテーション	26	情報管理①
	2 法人とは	27	情報管理②
	3 社会福祉法人①	28	復習①
	4 社会福祉法人②	29	復習②
	5 特定非営利法人	30	まとめ
	6 その他の組織や団体①	31	
	7 その他の組織や団体②	32	
	8 戦略	33	
	9 事業計画	34	
	10 組織	35	
	11 管理運営の基礎理論	36	
	12 福祉サービスの組織と経営の基礎理論まとめ	37	
	13 サービス管理	38	
	14 サービスの質の評価①	39	
	15 サービスの質の評価②	40	
	16 苦情対応とリスクマネジメント	41	
	17 サービス提供のあり方の方向性	42	
	18 サービス管理のまとめ	43	
	19 人事・労務管理①	44	
	20 人事・労務管理②	45	
	21 人事・労務管理③	46	
	22 人材育成①	47	
	23 人材育成②	48	
	24 会計管理と財務管理①	49	
	25 会計管理と財務管理②	50	
授業の方法	テキストに基づく講義、演習等		
テキスト/参考文献	最新社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営1」（中央法規）		
評価の方法 や基準	筆記試験もしくはレポートにより理解度を評価する。加えて出席数と講義中の態度も評価する		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記入する。	<input type="checkbox"/>		
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援施設 障害児通所支援サービス（主任） ・障害者就労支援施設（サービス管理責任者）相談支援専門員 		
実務経験の 活かし方	制度、資格、施設の現場、支援の実際等々、具体的な事例を含めて説明する。主任、管理者の側面から見えてきた現場と組織経営視点の違いと両者の重要性を混じえて。		
履修上の 注意事項	授業に関する課題（情報収集や演習課題）を出す場合あり。		

授業科目	ソーシャルワーク演習(専門)②	単位／時間	3単位/90時間
開講学科等	福祉保育学科 3年	担当教員	土居 光世
授業の目的 ・テーマ	社会福祉専門職として必要な援助技術を、ロールプレイングやディスカッションを通して学習する。これまで学んだ援助の体系や原理・原則が実践現場でどのように活用できるのかを、より深く追求する。		
授業の 到達目標	グループディスカッションやロールプレイ等を通して具体的な相談援助のイメージが持てる。また、課題別の事例演習や研究を行い、基本的な情報をまとめたり支援プランを作成することができる。		
授業 の 計 画	1 オリエンテーション	26	演習事例研究
	2 事例の理解について	27	〃
	3 ソーシャルワーカーの準備と役割	28	〃
	4 問題把握からニーズの確定①	29	〃
	5 問題把握からニーズの確定②	30	〃
	6 アセスメントから支援標的・目標設定①	31	〃
	7 アセスメントから支援標的・目標設定②	32	〃
	8 アセスメントから支援標的・目標設定③	33	〃
	9 アセスメントから支援標的・目標設定④	34	〃
	10 支援プログラムの作成から実行①	35	〃
	11 支援プログラムの作成から実行②	36	〃
	12 モニタリングと評価①	37	〃
	13 モニタリングと評価②	38	〃
	14 再アセスメントと支援の強化①	39	〃
	15 再アセスメントと支援の強化②	40	〃
	16 再アセスメントと支援の強化③	41	〃
	17 事後評価①	42	〃
	18 事後評価②	43	〃
	19 事後評価③	44	〃
	20 まとめ	45	〃
	21 演習事例研究	46	事例研究の振り返り①
	22 〃	47	事例研究の振り返り②
	23 〃	48	事例研究の振り返り③
	24 〃	49	事例研究の振り返り④
	25 〃	50	事例研究の振り返り④
授業の方法	グループでのディスカッションやロールプレイ、現場演習を通してのレポート、個人発表等		
テキスト/参考文献	最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[社会専門] 中央法規・資料配布		
評価の方法 や基準	出席率、授業姿勢、演習報告書、レポート、その他提出物等		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会（地域福祉の推進・相談業務等） ・居宅介護支援事業所（管理者・主任介護支援専門員） ・地域包括支援センター（総合相談・権利擁護・高齢者虐待・地域ケア会議・多職種ネットワークの構築等） 		
実務経験の 活かし方	ロールプレイング、プレゼンテーション等グループワーク形式での授業を進めて行く。		
履修上の 注意事項	授業や演習課題、レポートに対し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけて下さい。		

授業科目	ソーシャルワーク演習(専門)②	単位／時間	3単位/90時間
開講学科等	福祉保育学科 3年	担当教員	土居 光世
授業の目的 ・テーマ	社会福祉専門職として必要な援助技術を、ロールプレイングやディスカッションを通して学習する。これまで学んだ援助の体系や原理・原則が実践現場でどのように活用できるのかを、より深く追求する。		
授業の 到達目標	グループディスカッションやロールプレイ等を通して具体的な相談援助のイメージが持てる。また、課題別の事例演習や研究を行い、基本的な情報をまとめたり支援プランを作成することができる。		
授業の 計画	51 社会福祉援助と個別援助の課題①	76	検討事例の発表
	52 社会福祉援助と個別援助の課題②	77	〃
	53 社会福祉援助と個別援助の課題③	78	〃
	54 社会福祉援助と手段援助の課題①	79	〃
	55 社会福祉援助と手段援助の課題②	80	〃
	56 社会福祉援助と手段援助の課題③	81	〃
	57 支援計画書作成演習	82	〃
	58 〃	83	〃
	59 〃	84	〃
	60 〃	85	〃
	61 〃	86	〃
	62 〃	87	専門職としての援助技術の活用①
	63 〃	88	専門職としての援助技術の活用②
	64 〃	89	専門職としての援助技術の活用③
	65 〃	90	まとめ
	66 〃		
	67 〃		
	68 〃		
	69 〃		
	70 〃		
	71 〃		
	72 〃		
	73 〃		
	74 〃		
	75 〃		
授業の方法	グループでのディスカッションやロールプレイ、現場演習を通してのレポート、個人発表等		
テキスト/参考文献	最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[社会専門] 中央法規・資料配布		
評価の方法 や基準	出席率、授業姿勢、演習報告書、レポート、その他提出物等		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input checked="" type="radio"/>		
実務経験	・社会福祉協議会（地域福祉の推進・相談業務等）・居宅介護支援事業所（管理者・主任介護支援専門員） ・地域包括支援センター（総合相談・権利擁護・高齢者虐待・地域ケア会議・多職種ネットワークの構築等）		
実務経験の 活かし方	ロールプレイング、プレゼンテーション等グループワーク形式での授業を進めて行く。		
履修上の 注意事項	授業や演習課題、レポートに対し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけて下さい。		

授業科目	ソーシャルワーク実習指導②	単位／時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的 ・テーマ	社会福祉機関・施設での実習に向けて必要な知識、心構えを身につける。ソーシャルワーク実習①の反省、実習成果の報告を踏まえ、違う施設・機関の実習に向けて学びを深める。引き続き、対人援助の場面で重視される考察力を「書く」、「話す」表現方法を磨きながら、実習についての理解を深める。		
授業の 到達目標	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）および施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解するとともに、ソーシャルワーク実習①で見えた課題、反省点を活かし、より良い現場実習ができるように導く。		
授業の 計画	1 ソーシャルワーク実習①振り返り①	26	実習事前指導③
	2 ソーシャルワーク実習①振り返り②	27	実習事前指導④
	3 ソーシャルワーク実習成果発表①	28	実習事後指導①
	4 ソーシャルワーク実習成果発表②	29	実習事後指導②
	5 実習先概況等の調査、資料作成①	30	まとめ
	6 実習先概況等の調査、資料作成②	31	
	7 実習計画書作成①	32	
	8 実習計画書作成②	33	
	9 実習計画書作成③	34	
	10 実習計画書作成④	35	
	11 実習先とのオリエンテーション	36	
	12 実習に向けての心構え	37	
	13 記録の書き方①	38	
	14 記録の書き方②	39	
	15 実習生として求められる姿勢	40	
	16 利用者・職員とのコミュニケーション	41	
	17 実習テーマや達成課題に向けての取り組み	42	
	18 スーパービジョン①	43	
	19 スーパービジョン②	44	
	20 実習記録ノートの作成①	45	
	21 実習記録ノートの作成②	46	
	22 相談援助実習Q&A	47	
	23 実習先からのワンポイントアドバイス	48	
	24 実習事前指導①	49	
	25 実習事前指導②	50	
授業の方法	講義、社会福祉施設・機関見学、グループワーク		
テキスト/参考文献	『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』（中央法規）スマールステップで学ぶソーシャルワーク実習（星和書店）		
評価の方法 や基準	期末考査（40%）、レポート（30%）、授業態度（出席状況を含む）（20%）、意欲・関心（10%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）		
実務経験の 活かし方	実際の臨床現場でのソーシャルワーク、ケアマネジメント、実習生受入実績を通して、実習事前事後の学習方法を指導していく。		
履修上の 注意事項	特に無し		

授業科目	ソーシャルワーク実習②	単位／時間	4単位/180時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的 ・テーマ	社会福祉士受験資格取得のため、指定の社会福祉機関・施設で180時間の相談援助実習を行う。これにより、社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を現場において身につける。相談援助に関する授業において学習した内容を活かし、高い意識を持って実習に臨む。		
授業の 到達目標	社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を職種・職場・ソーシャルワーク実際に体験し、社会福祉士として具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得できる。		
授業の 計画	1 【実習機関・施設の役割、機能の理解】	26	
	2 職場実習	27	
	3 ・機関・施設概要の把握	28	
	4 ・業務内容・1日の流れの把握	29	
	5 ・実習目標の確認	30	
	6 ・積極的な言動	31	
	7 ・実習日誌への適切な記録	32	↓
	8	33	【利用者の人権尊重を意識した言動・援助】
	9	34	職場実習・職種実習
	10	35	・守秘義務を遵守した行動
	11	36	・利用者、家族へのプライバシーの配慮
	12	37	・利用者への声掛け
	13	38	
	14	39	
	15	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	↓
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	事業内容に応じて随時紹介		
評価の方法 や基準	実習先からの実習評価表に基づいて行う。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="radio"/>		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）		
実務経験の 活かし方	現場の実態を伝えながら、現場理解が深められるようにする。		
履修上の 注意事項	社会福祉現場で求められる援助者としての価値・知識・技術を体得するとともに、実習での経験が将来の方向性を定めるための判断材料になるように、自ら援助者・利用者に積極的に働きかけること。		

授業科目	ソーシャルワーク実習②	単位／時間	4単位/180時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的 ・テーマ	社会福祉士受験資格取得のため、指定の社会福祉機関・施設で180時間の相談援助実習を行う。これにより、社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を現場において身につける。相談援助に関する授業において学習した内容を活かし、高い意識を持って実習に臨む。		
授業の 到達目標	社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を職種・職場・ソーシャルワーク実際に体験し、社会福祉士として具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得できる。		
授業の 計画	51	76	
	52	77	【実習のまとめと反省】
	53	78	・実習の反省と課題の明確化
	54	79	・次回の実習の目標
	55	80	・自己評価
	56	81	【実習機関・施設の役割、機能の確認】
	57 【実習機関・施設に関する社会資源の把握】	82	職場実習・職種実習
	58 職場実習・職種実習	83	・実習目標の確認
	59 ・利用者を取り巻く社会的環境の把握	84	・積極的な言動
	60 ・社会福祉サービスについての理解	85	
	61 ・利用者の特性と制度利用の現状把握	86	
	62 ・実習機関・施設と他機関・施設の連携	87	
	63	88	
	64	89	
	65	90	
	66	91	
	67	92	
	68	93	
	69	94	
	70	95	
	71	96	
	72	97	【援助過程の学習と利用者理解】
	73	98	職種実習・ソーシャルワーク実習
	74	99	・教職員とのチームワーク
	75	100	・地域との連携
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	事業内容に応じて随時紹介		
評価の方法 や基準	実習先からの実習評価表に基づいて行う。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input type="radio"/>		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）		
実務経験の 活かし方	現場の実態を伝えながら、現場理解が深められるようにする。		
履修上の 注意事項	社会福祉現場で求められる援助者としての価値・知識・技術を体得するとともに、実習での経験が将来の方向性を定めるための判断材料になるように、自ら援助者・利用者に積極的に働きかけること。		

授業科目	ソーシャルワーク実習②	単位／時間	4単位/180時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的 ・テーマ	社会福祉士受験資格取得のため、指定の社会福祉機関・施設で180時間の相談援助実習を行う。これにより、社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を現場において身につける。相談援助に関する授業において学習した内容を活かし、高い意識を持って実習に臨む。		
授業の 到達目標	社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を職種・職場・ソーシャルワーク実際に体験し、社会福祉士として具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得できる。		
授業の 計画	101	126	
	102	127	
	103	128	
	104	129	
	105	130	
	106	131	
	107	132	
	108	133	
	109	134	
	110	135	
	111	136	
	112	137	
	113	138	
	114	139	
	115	140	
	116	141	
	117	142	
	118	143	▼
	119	144	【社会福祉専門職の意義の理解】
	120	145	ソーシャルワーク実習
	121	146	・専門職として援助者をとらえる
	122	147	・援助関係の見直し→ラポールの形成
	123	148	・利用者と援助者の関わりの考察
	124	149	・実習を通しての自己覚知
	125	150	▼
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	事業内容に応じて随時紹介		
評価の方法 や基準	実習先からの実習評価表に基づいて行う。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）		
実務経験の 活かし方	現場の実態を伝えながら、現場理解が深められるようにする。		
履修上の 注意事項	社会福祉現場で求められる援助者としての価値・知識・技術を体得するとともに、実習での経験が将来の方向性を定めるための判断材料になるように、自ら援助者・利用者に積極的に働きかけること。		

授業科目	ソーシャルワーク実習②	単位／時間	4単位/180時間
開講学科等	福祉保育学科3年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的 ・テーマ	社会福祉士受験資格取得のため、指定の社会福祉機関・施設で180時間の相談援助実習を行う。これにより、社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を現場において身につける。相談援助に関する授業において学習した内容を活かし、高い意識を持って実習に臨む。		
授業の 到達目標	社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を職種・職場・ソーシャルワーク実際に体験し、社会福祉士として具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得できる。		
授業の 計画	151	176	↓
	152	177	【実習のまとめと反省】
	153	178	・実習の反省と課題の明確化
	154	179	・将来の目標の見直し
	155	180	・自己評価
	156		↓
	157		
	158		
	159		
	160		
	161		
	162		
	163		
	164		
	165		
	166		
	167		
	168		
	169		
	170		
	171		
	172		
	173		
	174		
	175		↓
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	事業内容に応じて随時紹介		
評価の方法 や基準	実習先からの実習評価表に基づいて行う。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	<input checked="" type="radio"/>		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）		
実務経験の 活かし方	現場の実態を伝えながら、現場理解が深められるようにする。		
履修上の 注意事項	社会福祉現場で求められる援助者としての価値・知識・技術を体得するとともに、実習での経験が将来の方向性を定めるための判断材料になるように、自ら援助者・利用者に積極的に働きかけること。		